

179

近

特249
250

375
212

閣僚の全貌
近衛内閣

永松浅造著

10_{セン}

森田書房

2



0004710-000

特249-250

近衛内閣・閣僚の全貌

永松浅造・著

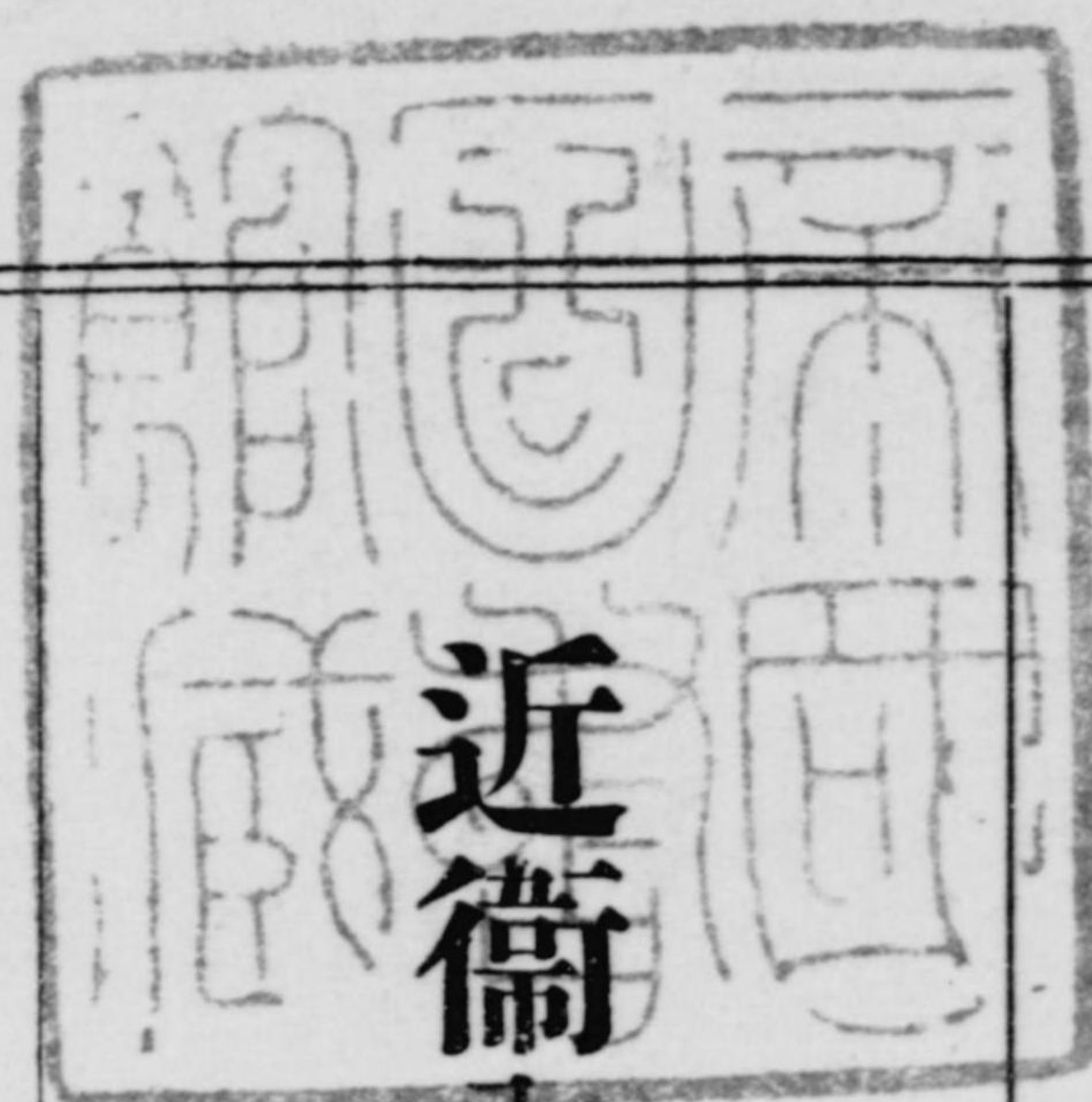
森田書房

昭和12

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月25日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの

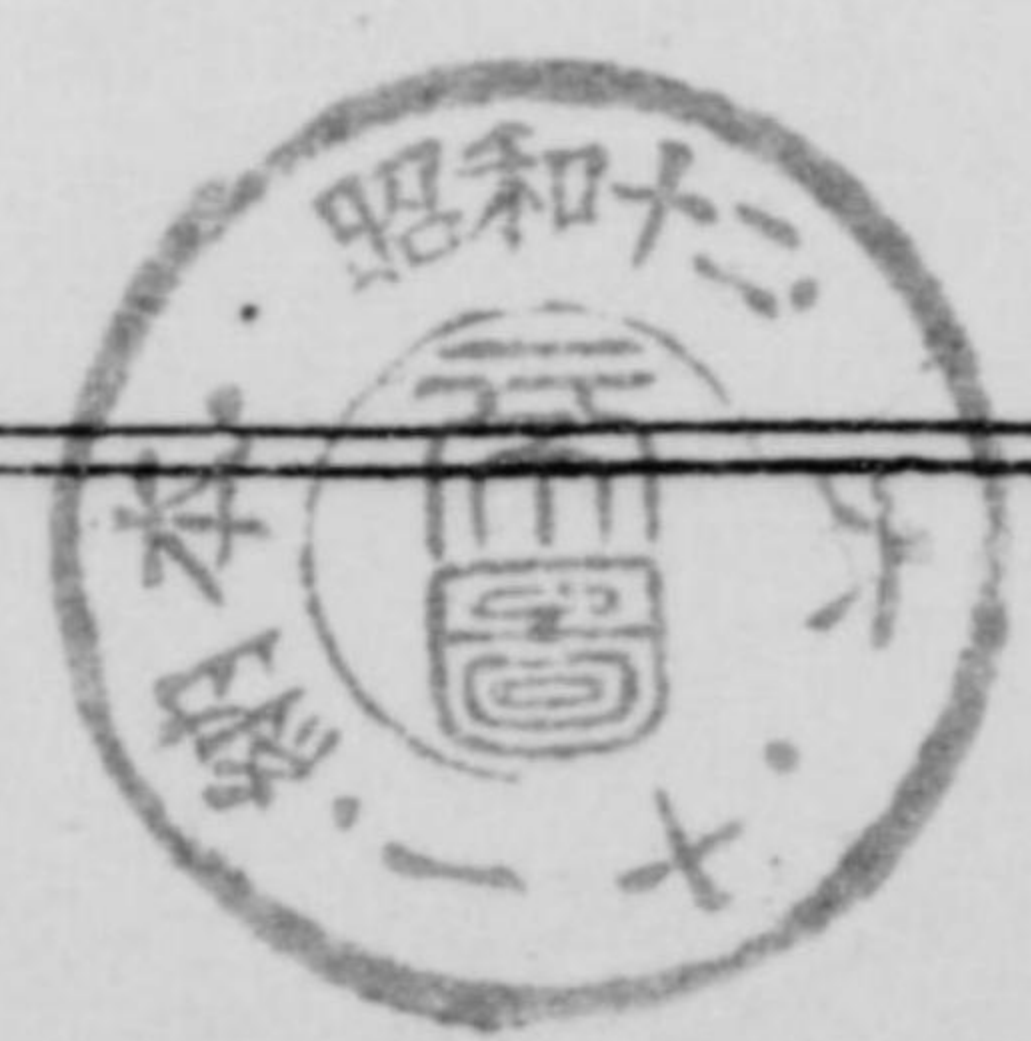
特 249
250



永松淺造著

近衛内閣・閣僚の全貌

森田書房版



はしがき

「籐を突いて蛇を出す」

藤原鎌足の子孫にして、多分に革新的思想をいだいてゐる公爵近衛文麿が、内閣總理大臣の要職についたことは、非常時風景の濃度ます／＼加はらんとしてゐる現下政局の主役として、最も相應はしいことであると共に、また興味あることだ。

強氣一點張で押し通すつもりであつた林首相は、周囲の情勢非なりと見るや、ひそかに退陣の準備をして、元老重臣方面に交渉し、後繼内閣の首班には、林内閣の政策を相當に尊重して政黨方面との摩擦を緩和し、しかも、わが國獨特の憲法政治を斷行し得る革新的氣魄ある人物を据えたいといふ條件を提出して、これが諒解を得たといふことである。

果して、その閣僚の顔觸れを見ると、政黨から二人の入閣者を見たとはいへ、何れも林内閣よりも、ヨリ以上に、革新的色彩の濃い人物である。

殊に、新黨組織運動は、これによつて愈々拍車をかけられる情勢を馴致し、財界方面に對しては、強引に統制が強化されると見られる節がある。

林内閣を倒して、自由主義的、またはこれに近似せる内閣の出現を希求してゐた方面にとつては、いはゆる藪をつゝいて蛇を出した形だ。現に、財界方面では馬場政策を懸念して、忽ち明朗色が解消したと傳へられてゐる。

近衛公自身は、極めて明朗にして、多角的人物であるが、現在のわが國における事實上の政治の推進力たる軍部が、儼然として控えてゐる以上は、誰が天下を取つても、一部の人々が要望してゐるやうな自由主義的内閣の出現は困難であらう。

悲しむべきことか、慶ぶべきことか、これは後世の史家でなくては、正鵠たる斷案を下すことはできない。

しかし、近衛が華かな脚光を浴びて登場したことにより、林内閣時代の、囂々たる世論が鎮靜したことは事實だ。これだけでも、近衛内閣の出現には意義がある。

以下首相以下閣僚について、そのプロフィールを描いてみよう。

目次

首相	近衛文磨	……………	(一)
外相	廣田弘毅	……………	(五)
内相	馬場鑣一	……………	(七)
藏相	賀屋興宣	……………	(一〇)
文相	安井英二	……………	(一一)
農相	有馬頼寧	……………	(一四)

商相 吉野 信次	………	(一六)
遞相 永井柳太郎	………	(一八)
鐵相 中島知久平	………	(三二)
拓相 大谷 尊由	………	(三六)
陸相 杉 山 元	………	(三八)
海相 米 内 光政	………	(三九)
法相 鹽野 季政	………	(三三)

近衛内閣・閣僚の全貌

永 松 淺 造

首相・近衛 文 麿

近衛は、華胄界における新人として異彩を放ち、名門といふバックによるばかりでなく、その識見といひ、人格といひ、どこへ押し出しても一流の人材たる器を具へてゐる。

徳川家達公が、貴族院議長の椅子を退くにあつたて、特に彼をその跡釜に推舉したのも、名門や、近親者といふことばかりでなく、彼ならば遣れるといふ見透しがついたからである。

また、西園寺公が、彼を岡田内閣總辭職後の總理に奏薦したのも、やはり、それだけの力量

を認めたからのことである。

公爵ブロックなど、思つたら間違ひである。

彼は、明治二十四年の生れであるから、今年四十七歳、人間として一ばん脂の乗り切つた時代で、本當の活動はこれからといふところだ。

世間では、彼が四十七歳の若さで總理大臣の重職についたことに驚異の眼を向けてゐるが、伊藤博文などは、四十五歳で既に總理大臣となり、黒田清隆は四十九歳でやはり總理大臣になつてゐる。

日本のやうな老人國でこそ、四十臺の總理や大臣は珍らしいが、外國では、そんなことは決して珍らしくない。現在活躍してゐる人々の例にとつてみても、ムツソリニの如きは、四十歳で首相となり、ヒットラーは四十四歳で首相になつてゐる。大英國の外交を双肩に擔つてゐるイーデンの如きは三十八歳で外相となつた。

日本にも、かういふ時代が來た譯だ。國民は、いゝ加減、老人萬能時代から覺めていゝ頃である。

近衛は、一高を出て、京大法學部政治科を卒業したが、一高時代には菊池寛や、久米正雄や、山本有三、芥川龍之介などの文學青年の友人があるかと思ふと、こんど文相として入閣した安井英二など、いふ政治青年も友人として深く交つてゐた。

菊池寛などは、屢ば近衛邸に招かれて、文學談に口角泡を飛ばしたといふことである。近衛自身も、オスカー・ワイルドの「サロメ」か何かを翻譯して、得意がつてゐたらしい。それに音樂の方にも趣味がふかく、わが國樂壇の重鎮たる令弟の近衛秀麿子に、音樂の手ほどきをしたのは、實に彼であつたといふから面白い。

彼が、はじめて政治生活に第一歩を踏み出したのは、大正八年二月、パリ講和會議が始つた際、全權委員の隨員を仰せつけられた時である。

その頃、彼は内務屬となつて、歐米に出張中であつたが、偶々西園寺公が、全權委員としてパリに赴くや、彼は因縁淺からぬ西園寺の秘書格となつた譯である。

彼は、十四歳で父（篤磨公）を失つて以來、西園寺の周到な撫育と庇護の下に、若竹のやうにすく／＼と伸びた。いはゞ、西園寺が、手鹽にかけて育てあげたやうなものだ。

この歐米滞在中、彼は大戰後の社會情勢が、デモクラシーを基調として、目まぐるしく變化して行く深刻な社會相を眺めて、わが國の特權階級とくけんかひきうに對する示唆を受け、歸朝後、深く反省するところがあり、昭和二年、公侯世襲議員を糾合して、貴族院を左右してゐる勢力ある研究會を去り、火曜會を結成して、貴族院に對する明確な態度を示し、あくまで不偏不黨の建前から今日に及び、貴院改革論の急先鋒となつてゐる。

そして昭和六年には、貴院副議長きういんふくぎしやうとなり、同八年には議長となつて、漸次彼の政治的勢力が擴大していつた。

ともかく、元來が聰明で、各層との接觸面も廣いので、存外圓滑に政治の運営ができるだらうと思はれるが、しかし行路は決して安易ではない。幾多の荆棘があることを覺悟しなくてはならぬ。

この荆棘を切開いて、ある程度の成績を擧ぐることができたら、彼自身の政治的生命に一段の光彩を添へて、多幸なる將來しやうらいを約束さるゝのみならず、日本の政界せいがいの一つのエポックを造ることになるであらう。

外相・廣田 弘毅

近衛内閣の外相候補として、前内閣總理大臣廣田弘毅の噂がのぼつた時、世間は、總理になつた者が、いまさら外相でもあるまいと取沙汰してゐたが、本人の廣田は、案外平氣で入閣してしまつた。

いちど、總理大臣になつた者が、他の内閣ひらだいじんに平大臣として入閣した前例は、決して少くない。古いところでは、黒田清隆、山縣有朋、松方正義等をはじめ、最近では高橋是清がある。これらの前例に徴しても、この人でなくては、この部面が收らぬといふ場合に引つ張り出されたものであつて、こんどの廣田の場合も、彼でなくては多事多端たじたんな現下の外交問題が、巧く行かないといふところから、その起用を促した譯で、彼にとつてはむしろ名譽とすべきである。

岡田内閣瓦壞後、近衛に組閣の大命が降つた時、病氣の故をもつて拜辭し、これに代つて廣田が内閣を組織したので、廣田としては、こんどの外相就任交渉を、その時つ御禮心で受諾したのだと言ふものもあるが、それも一面の理由りゆうにならう。

だが、若しそれを全部の理由とする者があつたら、それは廣田の人物を小さくするものである。廣田ほどの人間がそんな私情のみによつて、この大任を引受けたとは、どうしても考へられない。

今日の世界的情勢は、外交即内政であつて、よほどの人材でなければ、複雑多岐なる外交を背負つて立つことは困難である。この意味において、近衛内閣に、前首相廣田の入閣を見たことは、單に近衛内閣の補強策ばかりでなく、皇國のために最も慶ぶべきことである。

廣田は今年六十歳、人間としても、外交官としても、圓熟の境に入つた時で、彼の外交手腕こそ大いに期待すべきであらう。

彼が、福岡の石屋の小俣から身を起して、今日の地位を贏ちえたことは、あまりに有名な話だ。それだけに、彼れは人間味の豊かなところがある。恐らく、閣内における一種の緩衝地帯的役割をなすことにも、相當の功績を示すであらう。

内相・馬場 錠 一

二・二六事件誘發の一因をなした高橋財政を修正して、これが對蹠的政策を斷行しようとしたのが、いはゆる馬場財政なるものである。

即ち庶政一新のイデオロギ―を基調するところの税制改革案、飛躍的統制經濟政策等々を斷行すべく、廣田内閣の馬場蔵相は、わき目をふらず奮進した。

それがため、財界、經濟界は極度の不安に陥つて、全面的不人氣を惹き起した。

廣田内閣瓦壞後、馬場の消息は杳として、噂の端にものぼらなかつたが、それが突如として廣田外相と共に近衛内閣の副總理格として内相の椅子についた。

そればかりではなく、今後、内閣の諸政策企劃の中樞機關たる企劃廳の總裁を兼任することになつたのである。

この一事によつても凡そ近衛内閣が、いかなる性質のものであるかどハッキリ判つてくる筈だ。

庶政一新——即ち革新政策を恐るゝ方面にとつては、神を求めんとして、悪魔を得たことになる。

前首相林銑十郎は、あの大きな髭をしごきながら、

「どうだ。思ひ知つたか」と北叟笑んでゐるかもしれない。

近衛内閣の大藏大臣として入閣した賀屋といへども、その入閣に當つて、庶政一新、国防充實の因果を十分含められてゐる筈であり、殊に總ての政策が、企劃廳によつて立案せらるゝのであるから、独自の政策によつて、八方美人となる譯には行かぬ。馬場政策の延長にすぎないことを忠實に行ふまでのことだ。

林内閣が、あれほど強がりと言ひながら、ポツクリと參つたのは、やはり結城財政が、革新政策から後退の色を見せて、革新政策原動力方面の非難を受けたことが、主たる原因であつたことを思ふと、馬場を企劃廳總裁とする近衛内閣は、恐らく、こゝ數代の内閣によつて爲し得なかつた政策をズバ／＼と斷行するものと見てよい。

彼は、内務大臣としてよりも、むしろ企劃廳總裁として、ヨリ多くの仕事をなすものと思は

れる。

然し、内務省にも、幾多の革新的政策が残されてゐる。

即ち、河原田前内相によつて第七十議會に提案せられた國民體位の向上と、醫療大衆化を目的とする國民健康保險や、商店法や、更らに草案中であつたサラリーマン階級の健康保險など、重要政策が残されてゐる。

何れも、馬場のイデオロギ―に、しつくりと來るものばかりであるから、彼は議會において強引にこれが通過を計るであらう。

彼は、東京生れで今年五十九歳、東大政治科を出て、いろ／＼の方面に活躍したが、勸銀總裁から、廣田内閣の大藏大臣として入閣し、辭職後は悠々たる浪人生活をしてゐたが、軍部や新官僚方面との交際は、依然として頻繁に行はれてゐた。

彼が、その存在を忘れず、重要な役割を買つて浮びあがつたのも、それが一つの理由になつてゐるだらう。

とにかく、彼の革新的イデオロギ―は、附焼刃でなく、本當の信念となつてゐるやうだ。そ

れだけ、世間は内相兼企劃廳總裁としての彼の一舉手、一投足に注意を怠らないであらう。

藏相・賀屋興宣

近衛内閣の藏相として、第一に結城藏相が擧げられたが、これは軍部方面に難色があり、本人もあまり乗氣でなかつたので沙汰やみとなり、次に、前正金銀行頭取兒玉謙次に白羽の矢が立つたが、これは、個人としても、公人としても意見の合はない馬場鉄一が、内相兼企劃廳總裁として入閣することを聽いて、いさぎよく拒絶した。

これがため、折角すらくと運んでゐた組閣工作も、一頓挫をきたしたが、最後に交渉したのが、大藏次官賀屋興宣であつた。

賀屋は、その内交渉を受くるや、時局の重大性に鑑みて、ひそかに梅津陸軍次官と會見して先方の軍事豫算に關する意見を聽き、また自分の抱負も述べて、これなら大丈夫といふ自信がついたので、初めて入閣を受諾したのであつた。

豪放磊落のやうに見える彼も、永いこと計數のことに携つてゐるだけ、なか／＼緻密で、用

意周到なところがある。

彼は、近衛内閣の閣僚中、若手組に屬する方で、今年四十九歳、近衛と安井文相が四十七だから、まづこの三相は閣内の若手トリオと稱すべきだらう。

彼は、大正六年東大政治科を出ると、すぐ大藏省に入り、だん／＼省内に勢力を得て、大藏省の四天王の一とまで呼ばれるやうになつたが、主税局長時代、馬場が藏相として就任するや、彼を毛嫌ひして、理財局長に左遷した。だが、一部では彼は自ら求めて、理財局長になつたといつてゐるが、本當のことはわからない。たゞ、馬場とソリが合はなかつたことだけは事實だ。

それが、林内閣成立で一躍次官に出世し、こんどは、大臣の榮職についた。人間、どこに運があるかわからぬ。

馬場が、副總理格である以上は、大藏省にも、馬場の息がかゝると豫想されてゐるが、賀屋も今日では、堂々たる一人前の大臣である。左様簡單にはまゐるまい。

文相・安井英二

彼は、近衛と一高時代の學友で、今日まで親しく交際してゐた。

近衛が、大阪へ行つた時は、必ず安井の大阪府知事官邸を訪問して、舊交を温めてゐたといふことである。

早かれ遅から、一度は内閣を組織せねばならぬと考へてゐた近衛は、意中の人物として、安井の姿を絶えず胸中に描いてゐたに相違ない。

しかし、徹頭徹尾内務畑に育つた彼が、畑ちがひの文部大臣になつたことは、ちよつと意外に感じられるが、實際は、安井は新時代の文相として、最も適任せる抱負をいだいてゐたのだ。

即ち、試験地獄のために、小學校のいたいけな兒童たちが、朝から晩まで虐めつけられてゐる有様を見て、このまゝ押進めば、國民の體位を極度に低下せしむるのみならず、必要のない學科のために、却つて頭腦が散漫となり、上級の學校に進むにしても、實社會に出て働くにしても、用の辨じない人間になつて了ふといふことを痛感したのである。

そこで彼は、これが對策として、今年の中等學校入學試験を前にして、大阪府全部の中等學校教長を召集し、今後中等學校入學試験には、國史一科目にすることを嚴命した。

彼が、特に試験科目を、國史としたところにも、彼の國家觀念が窺はれる。

この點、平生前々文相が、義務教育延長一點張りによつて、體位と知識の向上を計らうとしたことゝは、根本的に相違がある。實に、彼の對策は、わが教育界に劃期的一石を投じたものである。

近衛は、大阪會見の際、安井からこのことを詳細に説明されて

「これなるかな」

と、膝を叩いて賛成したのであつた。

そんなことから、近衛は安井を文相に持つてきたと窺はれる。

彼は、明治二十三年生れであるから今年四十八歳、近衛よりも一つ年上だ。大正五年東大法科を出ると、すぐ内務省の庶務課に入り、異常なる出世振りを見せたが、地方局長時代、一部の同僚に敬遠されて、昭和十年一月大阪府知事となつて、今日まで府政のために眞劍努力をしてきた。

内務畑のコースとしては、知事から次官になつて、大臣になる順序になつてゐるが、安井は

次官を飛越して、一足飛びに大臣となつた。

ありがたいものは友人である。彼は恐らく、近衛のために碎心粉骨の努力を惜しまないであらう。

農相・有馬頼寧

労働運動が盛んになつて、デモクラティックな思想が、一世を風靡してゐた歐洲戦後のことだつた。ある華族さんが、眞夏の日ざかりに、汗みどろになつて、日比谷公園の草むしりをしてゐるといふので、新聞は、さつそく好個のフォト・ニュースとして、その面白い姿を紙上に掲載した。

これが、今日の農相有馬頼寧の若き日の片鱗だつたのである。

久留米藩二十二萬石の藩主伯爵の御曹子と生れたが、その血管の中には、何かしら、革新的なものが潜んでゐて、いはゆる長袖者流ではなかつた。

日比谷公園の草むしりをしたことも、他人から見れば、むしろ稚戯に類するものであるが、

本人にとつては、大真面目であつたに相違ない。

その後、彼の理想の現はれとして、同愛會々長とし、水平運動の先驅者となつたり、農事研究會を興し、農民相談所や、貧民學校を經營するなど、華胄界の新人として次第に存在を明かにしてきた。

彼は、明治十七年生れであるから數へ年五十四、明治四十三年東大農科の出身である。大正十三年、舊藩地の福岡三區から立候補して、みごとに衆議院議員に當選したが、昭和四年、貴族院議員となつた頃には、押しも押されぬ一とかどの政治家になつてゐた。

齋藤内閣成るや、農林政務次官に就任したが、農林問題がやかましくなつてきたので、政務次官の椅子を、織田信恒子に譲つて、産業組合中央金庫の理事長となり、ます／＼農村更生のために努力した。

國民健康保險法案が、七十議會に提案されるや、産業組合側の代議士と、醫師會側の代議士が議會で鎬を削つたが、産組の裏にあつて、彼が指導役をつとめてゐたことは知る人ぞ知るだ。

大體、この國保案は、農林省案を基礎として、内務省が提案したのであるが、七十議會で流れになつたのを、來議會に改めて提出することになるので、農林大臣となつた彼としては、極力その通過に努力するであらう。

全國の農村が、全面的に彼の農相就任を禮讃し、これを支持せんとしてゐるのも尤な話である。

近衛も、有馬も、共に華胄界の新人として、この内閣の好個の取合せだ。

商相・吉野 信次

商工大臣吉野信次も、賀屋藏相と同じく、人の蹴つた椅子を釣りあげた、僥倖の人だ。

平生夙三郎に、近衛は、商相就任を交渉したが、平生としては、廣田内閣の文相時代、全身全霊を打込んでゐた義務教育延長案を、この機會に物にしたいといふ肚があつたが、意外にも商相としての入閣だつたので、彼は態よく斷つてしまつた。

あれやこれやと物色した末が、東北興業總裁として東北にある吉野に白羽の矢が立つた譯で

ある。

だが、それは却つて近衛内閣にとつて一つの強味となつたものだ。

吉野は、大正二年東大獨法科を出ると、それからすつと商工省畑にゐて、今日では「商工省の吉野か、吉野の商工省か」といはれるまでに、牢乎たる勢力を省内に植ゑつけてゐる。商工省のことならどんな細かいことでも判らぬことはないぐらゐに通曉してゐる。

彼は今年五十歳の男盛り、わが國デモクラシー運動の先驅者として活躍した故吉野作造博士の弟だ。

やはり、令兄作造氏に似て、線の細かい學究肌の男であるが、策もあれば、度胸もある。たゞ、表面だけを見れば、いはゆる屬僚型、刀筆の吏型といふ感じを受けるが、どうしてなかく省内にも幾多の子分が居つて、商相の顔は幾度變つても、「吉野の商工省」は微動だもしな

さ。讀書が唯一の道樂で、寝ても起きてもし衣魚のやうに本にかじりついてゐる。従つて、彼の知識は、専門はもちろん、古來東西に及び、何を語らせても該博な引例によつて、相手を煙にま

いて了ふ。こゝが、若い官吏たちに對し非常な魅力となつてゐる。

躍進日本の貿易に關する重要な法律案を控えてゐる今日、彼の手腕に俟つことが多い。

遞相・永井柳太郎

「來たり、見たり、敗れたり」とか、

「西にレーニン、東ニ原敬」

など、美文もどきの文句で、變てこなゼスチユアで演説してゐた頃の永井柳太郎は、何だか人間が甘く見えて、政治家としての將來を危惧されてゐたが、だん／＼年をとり、政治生活が永くなるに従つて、人間として錆が出来、重味が増はり、人生觀、社會觀の上にも變化が來て、當今の政治家としては、第一人者たる資格を備へてきた。

政友の中島知久平の場合と同じく、近衛が、永井を閣僚に引ツこぬくに當つて、民政の黨首には、一言の撻撻もせず、個人の資格で入閣を交渉したのであつた。

林内閣組閣の際にも、永井と中島が入閣の交渉を受けたが、政黨離脱といふ條件に業を煮や

し、先づ永井蹴り、つゞいて中島が蹴つたことは周知の通りである。

だが、こんどは、近衛の交渉ぶりがよかつたのか、政黨側が折れたのか、實質においては、林の場合と、大したちがひはないにも拘らず、兩人とも素直に入閣した。

永井が、遞信大臣になつたことについて、一ばん心配してゐるのは、電力業者である。反對に一ばんよろこんでゐるのは、遞信省の革新的な官吏群である。

といふのは、電力國營案を、遮二無理に押し通さうとしたのは、永井と同黨の前々遞相の頼母木桂吉である。

頼母木が、あくまで同案の議會通過を固持してゐたことは、民政黨の幹事たる永井として諒解の筈である。いはゞ、電力案に對しては、永井も頼母木も、同穴のむじなである。だから、永井としては同僚の葬ひ合戦の意味で、是が非でも電力案の議會通過をはかるだらう——といふのが電力業者の觀測である。

遞信省の役人たちが、永井の遞相就任を歓迎するのも、やはりこの電力案成立に期すところがあるからだ。

果して永井が、頼母木案そのまゝを踏襲して、電力統制をやるか何うか、ともかく、これが近衛内閣にとつて、一ばん難題である。

庶政一新の斷行を、眞剣に決心してゐる方面では、本案を革新派政治の前驅としてゐるぐらゐであるから、永井も、おめく／＼と骨抜きにして丁ふこともできまい。

これの、處置如何によつて、永井の政治的手腕が評價される譯だ。

彼は、金澤生れの五十七歳、明治卅八年早大政治科を卒業後、母校から英、獨兩國に留學を命ぜられ、英國滞在中病氣で隻脚を失くした。これには、面白いローマンスがあるが、紙數の都合で書けない。

大正九年以來、引續いて代議士に當選し、加藤内閣の外務參與官、濱口内閣の外務次官を経て、齊藤内閣に拓相として入閣し、いよく政界に重きをなしてきた。

氣骨もあり、識見もある彼のことだから、遞相としても、相當の成績を擧げることだらう。

鐵相・中島知久平

中島知久平は、その識見、手腕及び政友會内における地位からいつても、一流の大臣級の人物である。

即ち、廣田内閣組閣當時には、イの一番に入閣の交渉を受け、彼も入閣する決心でゐたが、これは一部方面に難色があつてお流れとなり、林内閣組織當時にも、入閣の交渉をうけたが、これは入閣の條件として、政黨を離脱せよといはれて、自ら入閣を拒絶した。

だが、彼は二度までも入閣の機會を逸しながら、決して悲觀しなかつた。といふのは、彼がいはゆる大臣病患者でないのみならず、いつかは必ず機會がくるものと、心ひそかに期すところがあつたゝめであらう。

雜誌「新ジャーナリズム」の五月號に「易斷から見た第一線の人々」の中に、中島を易斷して火天上に在つて、照らさる處なし……天に應じて、亨くるの道ありといふ卦が出た。ともかくめちやくちやにいゝです。おてんとう様が、天上に照り輝くといふ貌ですから……今に、

いゝ事がありますぞ。大業決定の日が、直きに來ますぞ。と述べてある。

當るも八卦、當らぬも八卦といふが、これなぞば、あまりに當りすぎて、果して直きに、大業決定の日が來た譯だ。

近衛首相は、彼に入閣の交渉をした際、民政黨の永井柳太郎に入閣交渉に當つた時と同様に黨の幹部に相談なく、個人として入閣せしめたのであるため、黨では、政黨を無視すること、林内閣と五十歩、百歩だと、いきり立つ者もあつたが、黨で舉國一致を標榜して、林内閣打倒運動をやつた手前、いまさらこれを拒絶することもできず、痛し痒しといふところで、嫌々ながら入閣を承諾した形である。

それが、單に政黨を軽くあしらつたといふだけならまだしも、中島の入閣はやがて、新政黨組織のモメントとなることを、多分に示唆するものであるから、黨としては、一種の脅迫觀念に襲はれるのは當然である。

昨年の夏のことであつた。

輕井澤の近衛の別荘に、近衛と、中島と、前田米藏とが、鼎座して新政黨組織に關する謀議を凝らしてゐる眞ツ最中、これを聞きつけた鳩山一郎が、惶惶として近衛の別荘を訪れた。

しかし、近衛は、これをすげなく玄關拂ひをしたのである。

この一事によつても、近衛と中島とが、新政黨組織について、いかに深い關係があるかといふことが判る。

近衛が人命を拜受した時、この邊の消息を知る者は、敏感に中島の入閣を豫期したぐらゐである。

彼は、鈴木政友會總裁隱退後、總裁代行委員中のピカ一として光つてゐるが、日比谷市政會館内にある彼の國政研究會には、黨内、黨外の新人たちが常に集つてきて、あらゆる國政について、熱心に討究し、隱然たる一黨を成してゐる。

だから彼が、畑ちがひの閣僚の椅子に据ゑられても、決してマゴつくやうなことはない。

彼は、豫ての研究と、豊富なる資料によつて、いかなる問題といへども、たちどころに解答ができることになつてゐる。考へやうでは、彼が、今から首相學を勉強してゐるとも見られる。

電力國營案のごときは、あだかも内閣調査局において立案したやうに思はれてゐるが、實はあれは國政研究會の案を基礎として成案を得たものである。即ち、同所刊行の「國政調査會」の昭和十年九月版の電力問題號には、ちやんと、内閣調査局案の大差のない電力國營案が掲載されてゐるのだ。

鐵道大臣としての彼は、相當の成績を擧げるものと思はれる。鐵道の専門的事柄について全然素人である者が鐵道大臣となつて、盲目判を押すことゝ違つて、彼は可なり突込んだ説明を求めらう。

それだけ、鐵道の役人たちからは、うるさがられるかもしれないが、大局から見ても、慶ぶべきことだ。殊に國防と鐵道輸送とは最も重要な關係にあるので、彼のやうな科學者にして政治家たる鐵相を据えたことは、近衛内閣の大收獲といはねばならぬ。

彼は、群馬縣の出身で五十四歳、海軍機關學校を経て、海軍大學に進み、飛行機研究のためフランスに留學し、歐洲の飛行界とわが國の飛行界とが、雲泥の差あることを慨嘆し、將來、飛行機製作に身を投じて、國防充實に獻身的努力をしようと決心し、大正六年機關大尉で、軍

人生活から足を洗ひ、郷里の群馬縣に中島飛行機製作所を設立した。

一時、順調に進んでゐた製作所も、共同經營者たる神戸某が、私慾のために資金を引きあげたので、工場を閉鎖しなくてはならぬやうな窮狀に陥つた。

この時、政友會の長老にして、群馬縣出身の武藤金吉が、七十萬圓かの金を才覺してきて、中島に貸してくれたため、工場はこれによつて、再び息を吹き返し、それ以來、とん／＼拍子で發展、遂に今日の盛觀を呈するに至つた。

武藤は、内務政務次官中に急逝したが、中島はその恩顧を深く感銘し、これに酬ゆるためにその嗣子武藤金之丞を自分の秘書となし、現在その片腕として厚く用ひてゐる。金之丞、亦中島の知遇に感じ、兩々相俟つて、事務の圓滑を見てゐるといふことは、人情、紙のごとき今日、聞くだに胸のすくやうな話である。

彼は、いまだに獨身生活である。

「わが妻は事業と政治である」と稱し、牛込加賀町の邸内には、ライオンを飼つて楽しみ、折にふれてピアノを奏しては、獨身のわびしさを自ら慰めてゐる。

聰明と、健康と、富有なる財力と相俟ち、彼の政治家としての生命は、むしろ今後に大きな期待がかけられる。

拓相・大谷 尊 由

多角的な近衛内閣は、たうとうお坊さんを拓務大臣に祭りあげてしまった。

お坊さんといつても、大谷尊由は、少しも末香臭のないモダン宗教家で、近衛とはゴルフ仲間だ。

家柄からいふと、眞宗本派本願寺の現法主光照師の叔父にあたり、光照師幼少のころは、法主代理の要職にあつて、全國六百萬の信徒から、生佛様のやうに尊崇されてゐた。

明治十九年の生れであるから今年五十二歳、本願寺文學寮卒業後、明治四十二年歐洲へ宗教視察がてらの漫遊を試み、その後は、米國、支那、南洋方面にと赴いて、専ら「現代と宗教の關係」を調査し、日本の行詰り状態にある宗教界の改革を志してゐた。

現法主が、本願寺の總帥となると同時に、神戸の別格別院善福寺の住職となり、自由奔放の

生活をしてゐた。

昭和三年、久原房之助の推薦で、宗教界はじめての勅選となつたが、第一回普通選挙の際には、佛教關係の候補者のために、全國を行脚して、壇上に獅子吼した。

でツぶりした體格と、説教で鍛へあげた朗々たる音聲と、それに西本願寺の生佛様だつたといふ「お有難さ」が利いて、彼の應援した候補者は、全部當選したといふから凄いなものだ。

歌人九條武子夫人を、令妹としてゐるだけに、彼にも、多分に詩歌に關する趣味がある。

興いたれば、自作の詩歌を朗吟して楽しんでゐる。どこまでも、型破りのお坊さんで、やることすること、意表に出ることが多い。

廣田内閣時代の拓相永田秀次郎と、性格的に何處か共通なところがあるのも面白い。コントラストだ。

拓相として、どんな抱負と經綸があるか、大いに見物である。

陸相・杉山元

軍部が、わが國現下の政治その他あらゆる部面にわたる實際上の推進力となつてゐることは小學兒童といへども、よくこれを承知してゐる。

そして、その中心勢力が、依然として中堅層にあることも、かくれもなき事實である。杉山は、實にこの中堅層の輿望と、信頼を一身にあつめた逸材である。

しかし、いはゆる手腕家とか、遣り手といふ方ではない。あくまでも常識的で、堅實で、しかも、多分に篤實性を有してゐる。そして、その茫洋たる風貌のごとく、どこか捉へどころのない大きを持つてゐる。

こんなところが、却つて精銳な中堅層の信頼を受ける所以かもしれぬ。

彼は、明治十三年生れの五十八歳、生國は福岡縣小倉で、父は小學校の教師であつた。

陸軍大學校時代の成績は、上の方ではなかつたが、穩健なる思想と、常識的言動と、底なしふくべに等しい酒豪ぶりとは、上長に愛せられ、殊に宇垣大將には、相當に恩顧を蒙つてゐる。

だから、宇垣が組閣の大命を拜受した時は、情において、何とかして成立させてやりたかつたが、さつきも言つたやうに、何しろ軍の大勢が、宇垣反對に傾いてゐたので、杉山の力ではどうすることもできなかつたのである。

しかし、何といつても、彼は當代の陸軍部内における逸材である。若し、近衛内閣が自由主義的輿論に動かされて、組閣當初の進路に、轉換を催ふすやうなことがあれば、彼は敢然として、鞭撻することを辭せないであらう。

海相・米内光政

無條約時代に入つたわが海軍は、いよゝ多事多端になつて、異常たる決心を要する。

この秋にあたり、彼が海軍の總意によつて、二代の海軍大臣をつとめることは、よほど海軍部内に信頼が厚いことが窺はれる。これは、杉山が二代の陸相をつとめることと同様だ。

一部、軍部大臣を、内閣の變るごとに頻繁に、かへることは、大局から見てもどうかと思ふ。

大山巖、山縣有朋、西郷從道、桂太郎、兒玉源太郎、山本權兵衛などは、みんな二三代の内

閣に軍部大臣として居据つてゐる。外國の例に見てもさうだ。

米内や、杉山が留任したことは、何れの角度より見ても、極めて有意義なことである。願くはこの傾向を續けたいものだ。

米内は、岩手縣生れで今年五十八歳、その過去には、あまり華やかな生活はなかつたが、東北人特有の極めて堅實に、地味に、しかもねばり強く一步々と率乎たる地歩を築いてきた人である。

來議會には、海軍無條約時代に對處する尨大な豫算が提出されると思はれるが、林内閣ですでに尨大豫算を無事通過せしめた經驗を有する彼のことであるから、決してぬかりはあるまい。世間では、恐らく軍事費が大部分を占むる尨大豫算に對し、また囂々たる論議をするであらうが、事實國際危機に直面せるわが國は、軍備を充實して、これに對するより外に道はないのだ。

かしこくも明治天皇は、明治初年海軍擴張にあたり、議會が反對したので、毎年御内帑金を下附されて、これが促進を御計りになつたのであつた。

國民は、これに感激して、一意海軍擴張に邁進した結果、日清戰爭で黄海の大勝利となつたことは、人々の知る通りである。

鐵血宰相ビスマークは、

「言論文章のごときは書生銷閑の餘業に過ぎず、國家の伸暢には、たゞ武力あるのみ」といふ意味を強調して、遂にドイツを強大ならしめたのであつた。

軍備の充實に反對する者は、骨がらみの自由主義者か、巨大なる資本を有する階級である。國民大衆は、その子弟を軍人として國家に御幸公をしてゐる。資本家が、その所得の一部分を軍備充實のために徴收されるのは當然のことではないか。しかも、彼等の利得の増進たるや國家の發展に併行するものである。

われ等は、米内海相が、紛々たる世論に氣兼ねすることなく、既定の方針に向つて勇往邁進することを希望す。

たゞ、希望條件として、物價高を誘發して、國民大衆の生活を脅かすことのないやう、關係方面と技術的に慎重なる考慮を拂ふことを希む。

法相・鹽野季政

彼が、留任となつたことは、多角、多彩を以て誇りとする近衛内閣としては、當然のことであつた。

傳へらるゝところによると、彼は政界に隠然たる勢力を有する平沼系の人物であるといふから、内閣補強の意味からいつても、金的を射當てたやうなものだ。

彼は、司法部内において人氣もあり、壓力もあり。それに革新的氣魄があるので、庶政一新を眼目とする近衛内閣にはなくてはならぬ人物である。

彼は、長野縣の生れ、明治十三年出生とあるから、數へ年五十八歳だ。

平均年齢四十四歳となつてゐる若手ぞろひの近衛内閣には、長老組に屬する方だが、圓熟せる思慮と、實行力に富む手腕とは、各方面へ睨みの利くことゝ相俟つて、近衛内閣の司法部分をあづかる人物として、最も適役といはねばならぬ。

—六月四日記—

昭和十二年六月七日印刷
昭和十二年六月十日發行

近衛内閣・閣僚の全貌

定價十錢
(送料三錢)

著者	永松 淺造
發行者	東京市麴町區有樂町二ノ二 森田 益雄
印刷者	東京市芝區新橋三ノ二〇 荻 四郎

發行所 株式會社 森田書房
 全國配給所
 電話銀座(57)二五二三番
 振替東京一一九一一七番

月刊「話の茶街」發行
 雑誌「旅行の茶街」發行

北部配給所	新潟縣三條市田島三三四
	森田書房 北部支社
京阪神特約店	大阪市北區東梅田町六
	大阪 參文社

有所出版

〔特約〕 東京鐵道局公認 (鐵道保養會・鐵道弘濟會・鐵道授産會)

月極購讀者を募集す

出版部から

一、一般大衆の時局指導書としてパンフレットの存在は萬人に認められつゝ、あります。次から次へ現れる新しい情勢を正しく把握して戴くことが我が出版部の任務であり、全國民共同の責務でもあることを固く信じてゐます。

一、現代人が知らんと慾する凡ゆる問題に關して明解な答をする爲め森田書房（時局研究部）は、今後全力を傾注し、政治評論に於ても、經濟、社會問題に關しても、又進んで國際關係に於てもそれぞれ日本の第一人者を動員して、全國の皆様満足と與へて行く念願であります。

パンフレットは手軽に得られる新時代の新知識であつて、明日を知り、明日に備へんとする現代人必讀の書である。

月極購讀（五冊）金五十錢
 半ケ年金 三圓（送料共）
 一ケ年金五圓八十錢（同）

地方より御申込みは一ケ月郵税として別に金五錢戴きます。
 （合計金五十五錢）

特典

（イ）月極パンフレット五冊購讀者へはサービスとして月刊新よみもの雑誌「話の王國」一部進呈
 （ロ）名士の論評を始め時事問題の解説出版界の状況細大もらさず掲載の月刊パンフレット通信を無料贈呈します

申込所

パンフレット出版
 話の王國
 オールユーモア
 旅行茶街
 日本に於ける唯一のパンフレット全國總配給元

左記パンフレット大取次	陸軍省新聞所	東京商工會議所	都新聞社	國民新聞社	同盟通信社
子	館	所	社	社	社

話の王國社
森田書房

東京市麹町區有樂町二ノ二
 電話（57）營業部二五三三番
 編輯部六六三三番
 發送部六八三三番
 振替東京一一九一一七番

日書行刊房書田森 賣即子册 會及普

Table listing various books with columns for author, title, and price. Includes titles like '世界の秘密結社を探る' and '孟子の説法'.

(四月一日より郵税三錢に改正されましたから御了詳下さい。)

日書行刊房書田森 賣即子册 會及普

Table listing various books with columns for author, title, and price. Includes titles like '支那に揚る對日宣戰の叫び' and '新東相場は今後も'.

(四月一日より郵税三錢に改正されましたから御了詳下さい。)

既刊書御注文は、すべて前金にて御願ひ致します。御申込は當書房又は最寄賣店へ。送金は振替又は郵便切手(二錢切手使用)のこと。

全圖主國要驛賣店有名書店ニテ發賣中

森田書房刊行書目

アザラシ著 新傑作 万才 價一〇〇	長谷川著 エドワード八世と シンブソン夫人 價一〇〇	高橋之助著 支那を擾亂する 赤魔共産軍の正體 價一〇〇	藤川著 張學良と蔣介石 價一〇〇	及川著 京都競馬の穴馬はこれだ 價一〇〇	千田著 議會名物 男 價一〇〇	和久田著 第七十議會の全貌 價一〇〇	正虎著 昭和十二年運動早わかり 價一〇〇	眞鳥著 手相と運命 價一〇〇	眞鳥著 姓名の附け方で一生の盛運がわかる 價一〇〇	日田著 發火點上の國際關係 價一〇〇	日田著 大波瀾の株界に如何に處すべき 價一〇〇	演松著 政壇上に叫ぶ 價一〇〇	綿貫著 陸軍名物 男 價一〇〇	六助著 轉換期に立つこれからの日本 價一〇〇	御手洗著 轉換期に立つこれからの日本 價一〇〇	辰雄著 轉換期に立つこれからの日本 價一〇〇	千田著 議會亂闘史 價一〇〇	逸川著 武人・林銑十郎 價一〇〇	宮崎著 肅軍を糺す 價一〇〇	高橋著 誰にも出来る副業案内 價一〇〇	清之助著 我が太平洋 價一〇〇	助之助著 結城新財政で景氣はどうなる 價一〇〇	事業と會編 結城新財政で景氣はどうなる 價一〇〇	尾崎著 經濟戰か武力戰か 價一〇〇	事業と會編 生産力擴充時代の事業と株式 價一〇〇	正田著 結城財政を衝く 價一〇〇	忠著 澤ダビーの覇者はこれだ 價一〇〇	鳥山著 極東は戦争か平和か 價一〇〇	銀次著 容態態度でも成功型・失敗型 價一〇〇	中外著 勝馬を決める急所 價一〇〇	忠著 澤馬を決める急所 價一〇〇	事業と會編 絶対怪我のない實株投資心得 價一〇〇	荒木著 軍・青年に與ふ 價一〇〇	貞夫著 政局はどうなる 價一〇〇	吉次著 政局はどうなる 價一〇〇	新聞社編 小学校だけの學歴で出来る新職業案内 價一〇〇
-------------------	----------------------------	-----------------------------	------------------	----------------------	-----------------	--------------------	----------------------	----------------	---------------------------	--------------------	-------------------------	-----------------	-----------------	------------------------	-------------------------	------------------------	----------------	------------------	----------------	---------------------	-----------------	-------------------------	--------------------------	-------------------	--------------------------	------------------	---------------------	--------------------	------------------------	-------------------	------------------	--------------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------------------

○既刊書御注文は、すべて前金にて御願ひ致します。御申込は當書房又は最寄賣店へ。
送金は振替又は郵便切手（三錢切手使用のこと）

全圖主國要驛賣店有名書店ニテ發賣中

森田書房刊行書目

園田著 聖女ヘレン・ケラー 價一〇〇	基彦著 困る時苦しい時の訓へ二百卅條 價一〇〇	福司著 ひとのみちは何をしてゐたか 價一〇〇	大黒著 成金の當り物 語 價一〇〇	千田著 相場箴言、鐵則百ヶ條 價一〇〇	外史著 秘書大當り物 語 價一〇〇	福司著 相場箴言、鐵則百ヶ條 價一〇〇	野田功著 軍需インフレは何時を續くか 價一〇〇	林正亨著 帝國獨特の憲政 價一〇〇	新聞社編 オール實話傑作集 價一〇〇	山内著 政黨内閣は果して復活するか 價一〇〇
--------------------	-------------------------	------------------------	-------------------	---------------------	-------------------	---------------------	-------------------------	-------------------	--------------------	------------------------

375
212

東京市内で一番よく賣れる

讀賣新聞

朝刊二十頁
夕刊八頁

東京座銀
讀賣新聞社

